

明るく 仲良く たくましく

笠松小学校の子どもたちの特徴は表題の三つの言葉で表されるのではないかと思います。この特徴は、子どもたちを育む温かい家庭、学校の先生がた、地域のかたがたの心と態度の反映だと思えます。子どもたちを取り巻く環境が悪化する一方の日本の社会の中で、笠松小学校の子どもたちは本当に幸せです。

笠松小学校PTAは、子どもたちが喜んで学校生活を送ることが出来るよう、2006年度も学校と保護者のかたがたに協力をお願いし、さまざまな取り組みをしてきました。

【授業参観日の学校探検】



子どもたちが家族の人とクイズをしながら校内探検を



笠松町道徳教育連絡会議



しました。「タンケンレンジャー」も登場し、子どもたちの生き生きとした表情が印象的でした。

【合同講演会】
子どもたちが明るく、仲良く、たくましく育つためには、私たち親の生き方が問われます。昨年に引き続き、全ての委員会合同でカウンセラーの竹内成彦先生をお招きして講演会を行いました。子どもと心の通った関係を築くために、「子どものサインが見えますか、子どもの話を聞こう」というテーマで講演していただきました。「親子でこんな会話ができれば」と思われる、楽しく心に響くお話でした。

【祖父母 家族参観＆ふれあいの会】
子どもたちを温かく見守ってくださる祖父母のかたや家族を学校にお迎えして子どもたちの合唱とPTAコーラスクラブの合唱を聴いていただきました。また、子どもたちが心をこめて育てた菊をプレゼントしました。

【親子活動Ⅱお餅つき】
親子で協力して、力いっぱいお餅をつき、その後は美味しいお餅を皆でいただく。とても幸せなひと時でした。



最後は今年発足した「笠松地域子どもを守る会」の活動を紹介します。子どもたちの登下校時に要所に立ち、子どもたちの安全を見守って明るく声をかけてくださっています。子どもたちの挨拶も生き生きとしてきたことを感じるこの頃です。



子どもたちの明るい笑顔は私たちに与えて将来のエネルギーです。それを絶やさない町に！

笠松小学校PTA

会長 土屋 繁

岐阜県後期高齢者医療広域連合の設立について

近年の急速な高齢化の進行に伴い、増加の一途をたどる医療費の伸びを抑制し、現役世代と高齢者世代の負担の不公平を解消するために、安定的で持続可能な医療制度の構築が必要になってきています。

このため、75歳以上（一定の障害のあるかたは65歳以上）のかたを対象とした現在の「老人保健医療制度」が平成20年4月から「後期高齢者医療制度」にかわります。

これまで「老人保健医療制度」の運営はそれぞれの市町村で行ってきましたが、「後期高齢者医療制度」の運営は、全県的に行うこととなります。そのため、平成19年2月1日に県内全ての市町村が参加する広域連合を設立しました。

広域連合では、今後「後期高齢者医療制度」の開始に向け、原則県内均一の保険料率の設定や、各市町村窓口と結んで給付事務などを行う電算処理システムの構築などの準備をしています。

後期高齢者医療制度に関してのご質問は岐阜県後期高齢者医療広域連合（☎387 - 6368（代表））、または、市町村の担当窓口までお問い合わせください。 【問合先】住民課